



### WINGで出会った人々

いったいどんな人たちが南平にある「鳥と緑の日野センター」(WING)にいるのでしょうか? 今回この欄では、私がWINGで出会った人々についてお伝えしたいと思います。申し遅れましたが「私」はなんらスペシャルな人間ではなく、かつてWINGに勤務していた元職員「アラフォーA」とでもしておきます。



WING敷地内の林の管理は、多くのボランティアの方々に支えられています

まず思い浮かんだのは、19

97年のWING開設時より敷地内の林の育成管理に尽くされているボランティアさん達のこと。私が在籍していた頃のWINGの林は、裸地にコナラやヤシブシなどの苗が植樹されて3〜4年が経過し、樹高3〜5mの若々しい林になっていました。自然林育成のメインである「鳥や風が運んでくる在来種」も芽生え始め、しかしそれ以上に園芸種や外来種も沢山芽生え、どのように管理していくべきか、皆で悩みながらの作業でした。草刈り機もチェーンソーも操る職人ばりの方から、畑仕事で得意な方、作業後のおいしい味噌汁を作るのが得意な方、それを楽しみにしている方、いろんな方がそれぞれのペースで楽しんでいました。この活動は現在も地元自治会の方にもその輪を広げて続けられています。

そしてもちろん、日本野鳥の会の職員やスタッフとの出会いがありました。彼らは、野鳥をはじめ生きものや自然が本当に大好きで、自然を相手とする研究や保護の仕事に使命感と誇りを持ち、とても刺激的でした。当時WINGには、野鳥の調査研究、生息地保護、調査結果のデータベース構築など情報管理、国際的な野鳥保護の取り組み、環境教育における企業との協働事業を担う各部署とWINGの施設管理を担う部署が入り、総勢20〜30名ほどが勤務していました。外国人職員もいて英語も職場で普通に話されていて焦りました。

職員、パートスタッフのほか、ボランティアさんや学生アルバイトも多く、支部の方が相談に見えたり、近隣で鳥の調査や研究をされている方、あるいは学生や会員の方が調べものになったり、ご近所の方がお花のプランターをくださったり、この鳥なかに?と子供が質問に来たり、実に様々な人で支えられている、様々な人が引き寄せられている場所だと感じました。

現在は組織改編により、環境教育以外の事業は品川区西五反田にある事務所を拠点に展開されています。また、当時の職員やスタッフは半数以上がWING(日本野鳥の会)を巣立っていかれました。少々寂しい気もしますが、彼らは会の理念を忘れず、それぞれの分野で元気に活躍しています。一方、日本野鳥の会は新しい人材へと世代交代しています。そしてWINGは今、日野市のみなさんにさらに開かれた施設になろうとしています。これからもWINGが沢山の素敵な出会いの場となることを祈念しまして「アラフォーA」のつぶやきを終了いたします。

文/ (財)日本野鳥の会 鳥と緑の日野センター(WING) 吉家 奈保美

### 自然観察会 秋の野に 木の葉と紅葉を 自観訪ねよう



11月の自然観察会は都立長沼公園で開催された。ご存知のとおり、今年の夏は例年以上に暑く雑木林の木々にも多大な影響を与えているはずである。秋になり気温も落ち着いた季節に樹木たちは紅葉しているか、ちゃんと木の実を付けているか自分なりにも見てみたい気持ちでした。今回は講師に八王子自然友の会の筒井千代子氏を招き、いつもとは視点を変えた自然観察会が行なわれた。

当日は気温もそれほど低くなく、絶好の観察会日和となりました。京王線の長沼駅改札前に集まった参加者19人は、筒井氏を先頭に都立長沼公園(公園といっても山を歩きやすいよう整備した自然公園)を目指して歩き始めた。筒井氏は何の変哲もない樹木の前で立ち止まり説明を始める。気にする人などほとんどいないような木でも、子孫を残すための知恵が随所に見られる。種を遠くまで飛ばすために風に乗るような工夫があったり、他の木では、どんぐりをねずみが土の中に隠す習性を利用したりする。筒井氏の話は、興味の無い人にはまったく意味が無いものかもしれない。しかし参加者はメモをとりながら熱心に聞いている。どんぐりの根はどこから出たのか、なぜ葉は紅葉するのかなどの話をしながら、自然観察会はゆっくり進んでいった。途中、ナツハゼの実があり、参加者と一緒に食べてみた。「おいしい」とは思わなかったが、「日本のブルーベリー」と言われているだけあり、ブルーベリーに似た味ではあった。前半のスローペースが災いし、後半はかなり飛ばしたが、1時間予定を超過して自然観察会は終わった。私は担当者だが、自然観察会は楽しいと思う。知識が増えるし、歩くことは健康にも良い。今後この自然観察会を末永く続けていきたいと思う。

(S・N)